

2019 年 08 月 16 日

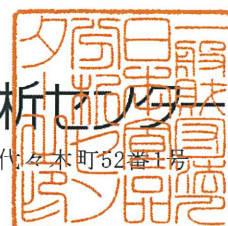
試 験 報 告 書

依 頼 者 株式会社 エコ・コンパス

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 エコ・ウォッシュ 掃除王MAX pH13.0

表 題 殺菌効果試験

2019 年 07 月 10 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

殺菌効果試験

1 依頼者

株式会社 エコ・コンパス

2 検 体

エコ・ウォッシュ 掃除王MAX pH13.0

3 試験概要

検体に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験(表-2 中和条件を参照)により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)			
		開始時	15秒後	30秒後	60秒後
カンピロバクター	検 体	—	<100	<100	<100
	対 照	1.9×10^7	1.3×10^7	1.0×10^7	2.6×10^7
大腸菌 (O157:H7)	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	8.4×10^5	—	—	9.2×10^5
サルモネラ	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	9.7×10^5	—	—	9.1×10^5

<10及び<100: 検出せず

保存温度: 室温

対照: 精製水 (カンピロバクターは生理食塩水)

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	① <i>Campylobacter jejuni</i> subsp. <i>jejuni</i> ATCC 33560 (カンピロバクター) ② <i>Escherichia coli</i> ATCC 43895 (大腸菌, 血清型O157:H7, ペロ毒素 I 及び II 型産生株) ③ <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> NBRC 3313 (サルモネラ)	
	試験菌①	前培養 : 5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2 (OXOID), 35 °C ± 1 °C, 2 ~ 3 日間微好気培養 菌液調製溶液 : 生理食塩水 菌数 : 10 ⁸ ~ 10 ⁹ / mL	
	試験菌② 及び ③	前培養 : 普通寒天培地 [栄研化学株式会社], 35 °C ± 1 °C, 18 ~ 24 時間好気培養 菌液調製溶液 : 精製水 菌数 : 10 ⁷ ~ 10 ⁸ / mL	
試験液	検体 10 mL に試験菌液 0.1 mL を接種		
保存条件	15秒, 30秒, 60秒 (室温)		
中和条件	SCDLP 培地 [日本製薬株式会社] で 10 倍希釈		
対照	試験菌① : 生理食塩水 試験菌② 及び ③ : 精製水		
生菌数測定	試験菌① :	5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2, 平板塗抹培養法	35 °C ± 1 °C, 5 日間微好気培養
	試験菌② 及び ③	SCDLP 寒天培地 [日本製薬株式会社], 混釈平板培養法	35 °C ± 1 °C, 2 日間好気培養

以 上